

第 43 回奈良市子ども・子育て会議 会議録			
開催日時	令和 8 年 7 月 10 日（金） 午後 1 時～午後 3 時		
開催場所	オンラインを併用したハイブリッド形式 ※本会場は奈良市役所 北棟 6 階 602 会議室		
出席者	委員	大方会長、清水副会長、伊藤委員、大向委員、梶木委員、國原委員、栗本委員、櫻井委員、重松委員、白井委員、辻中委員、西山委員、村井委員、山野委員、渡邊委員 【計 15 人出席】	
	事務局	【子ども未来部】 保田子ども未来部長、田村子ども未来部参事、増田子ども未来部参事兼子ども政策課長、譚田幼保こども園課長、西川子ども給付課長、小島子ども育成課長、片岡子ども安心課長、浦一時保護課長、岡本子ども家庭支援課長 【保健所】 米野母子保健課長 【教育委員会事務局】 小林教育政策課長、原田放課後児童育成課長、西村学校教育課長、岡田特別支援教育推進課長	
開催形態	公開（傍聴人：0 名）	担当課	子ども未来部子ども政策課
議題 又は 案件	1 報告案件 （1）令和 8 年度奈良市子ども会議について （2）第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプランの進捗状況について		
決定又は取り 纏め事項	・令和 8 年度奈良市子ども会議について、確認およびご意見をいただいた。 ・第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプランの進捗状況について、確認およびご意見をいただいた。		

議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

1 報告案件

(1) 令和8年度奈良市子ども会議について

・事務局より、資料2-1、2-2に基づき、令和8年度奈良市子ども会議について、内容を説明した。

・委員より、過去からの参加人数推移を踏まえ、集まりにくいといった苦勞や課題があるのか教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、昨年度の参加者減少を課題と捉え、今年度はデジタルサイネージやさくら連絡網を活用して周知を強化した結果、現在は募集枠に近い応募があること、また来年度の周知方法も引き続き考えていきたいと回答した。

・委員より、フィールドワークがある中で大学生サポーターを7名に限定している理由について教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、大学生サポーターへの報酬支払いの予算上の都合や、グループ数が5グループに限られておりサポーターが過剰になりすぎないようにするため、7名に限定していると回答した。

・委員より、広範囲なフィールドワークで人数が足りるか心配であり、予算との兼ね合いを考慮しつつ、どのような形でサポートしていくか綿密な打ち合わせが必要であるとの意見があった。

・事務局より、大学生サポーターには事前に動画配信によるレクチャーを予定しており、フィールドワークの際は事務局もサポートに入る予定であると回答した。

・委員より、大学生サポーターの取り組みは重要であるため、せっかくなら応募した方全員に参加していただいた方がよいとの意見があった。

・委員より、子どもたちが将来の進路や受験等でアピールできるようなネームバリューやきっかけとなる仕組みがあるとよいとの意見があった。

・事務局より、新規の方への周知も含めて検討していきたいと回答した。

・委員より、非常に暑い時期の実施となるため参加者や大学生サポーターが熱中症にならないよう配慮を求めること、また次年度以降は予算を確保して、各グループのサ

ポーターの数を増やすなど、応募した大学生が全員参加できるよう取り組んでほしいとの意見があった。

・事務局より、フィールドワーク時には暑さ指数を確認および携帯用冷却パックの配布を行うなど暑さ対策に十分注意すること、また今年度は外国の留学生の参加に伴う費用の都合上、日本人サポーターの予算が限られているが、次年度は予算についてしっかり考えていきたいと回答した。

・委員より、少し特色のある子が応募した際に大学生サポーターが不足する場合の対策はあるかとの意見があった。

・事務局より、現在も養護学校に通っている方が参加しており、現時点ではサポート体制が十分に届いていること、また大学生サポーターだけでなく事務局やファシリテーターも含めた体制で臨んでいると回答した。

・委員より、子どもたちが帰宅した後に家庭で話したことや、子どもが感じたことを家庭からフィードバックしてもらえるような仕組みはあるかとの意見があった。

・事務局より、昨年度に「防災」をテーマで実施した際、家庭で話したことを会議内で共有する機会を設けており、今年度も同様に子ども会議の中で家庭で話した内容を聞く機会を調整していきたいと回答した。

・委員より、今後はキャリア教育の視点として、グローバルに活躍するビジネスパーソンや多様な活動をしている大人の話を聞くなど、キャリアや将来を考える刺激になるコンテンツをテーマに応じて取り入れてはどうかとの意見があった。

・事務局より、今年度は外国人観光客や留学生に声をかけているところであり、来年度以降はさらにアンテナを張って調整できるようにしていきたいと回答した。

・委員より、参加者が大幅に増えた要因が募集方法やテーマによるものなのか不明ではあるが、子どもたちが集まりやすいテーマ設定を市からも提案・検討してほしいとの意見があった。

・事務局より、テーマ決定時には子どもたちにヒアリングする機会を設け、より参加しやすいテーマを検討したいと回答した。

・委員より、グループ分けをする際の年齢ごとの編成など、工夫している点はあるかとの意見があった。

・事務局より、今年度の「国際交流」というテーマにおいてはさまざまな学年をミックスしたグループを考えており、英語での会話など中高生によるサポートを期待した編成を考えていると回答した。

・委員より、年齢ミックスの編成は年齢幅が広いため、大きい子だけ、あるいは小さい子だけで話したいことが埋もれないよう、また、子どもたちの意見がどう生かされるか、大人がどう反応してくれるかなどが大事だと思うので、今後検討をお願いしたいとの意見があった。

・委員より、なら子育て情報ブックの中に今回の「子ども会議」に関する情報が掲載されていないとのことだが、子育てにとって大事な会議であるため、次回の発行の際には掲載を検討してほしいとの意見があった。

・事務局より、なら子育て情報ブックは子育て支援情報を主に載せているが、次年度の発行の際によく検討して内容を考えたいと回答した。

(2) 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプランの進捗状況について

・事務局より、資料 3-1、3-2、3-3 に基づき、第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプランの進捗状況について、内容を説明した。

・委員より、事業番号 41 番「教育・保育施設及び地域型保育事業の整備」の資料 3-2 の目標値 (3,296) と実績値 (3,269) について、資料 3-3 ではどの数値を示しているのか、また予算が大きく跳ね上がっている理由について確認したいとの意見があった。

・事務局より、目標値については、資料 3-3 の 7 ページ 令和 7 年度の計画値の表に記載の確保方策の数値である「2 歳 : 1,313、1 歳 : 1,154、0 歳 : 829」の合計が 3,296 となっている。また予算額については、こども園化に伴う施設整備の内容によって増減するものであり、令和 7 年度は民間移管を行った旧市立西大寺北幼稚園等の 2 園、令和 8 年度は旧市立済美幼稚園等の 6 園に係る施設整備の補助金予算を計上しているため、予算が膨らんでいると回答した。

・委員より、事業番号 5 番「放課後児童健全育成事業」について、全体でみると、実績値は計画値を上回っているが、1 年生の実績値が計画値を下回っている要因について教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、1 年生の数値減少は近年の児童数減少が影響していると認識しているが、各学年ごとのブレについては十分な分析に至っておらず、トータルとして、申し

込み児童数は増加傾向にあると回答した。

・委員より、幼稚園や保育所から小学校に上がる際の一年生の対応は重要であるため、バンビーホームに入らない子がどうしているかなど詳細な動向分析を行うことが今後の目標設定に影響するのではないかということ、また夏場の暑さ対策として冷房の効いた体育館等で遊べるように連携をしてほしいとの意見があった。

・事務局より、いただいたご意見は今後の運営に生かしていきたいと回答した。

・委員より、資料 3-3 の 7 ページ「教育・保育」において「2 号認定児の中の教育希望が強い」という表記があるが、これは「新 2 号認定児」のことを指しているのか、またどのようなお子さんを想定しているのか教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、これは 1 号認定児で一時預かりを利用されている方を指していると回答した。

・委員より、1 号認定で一時預かりを使っている子が 2 号認定としてカウントされているということかとの意見があった。

・事務局より、国の表記が「2 号認定の教育規模が強い」という表現になっており、市の整理としては 1 号認定の教育希望で保育希望が強いという形で読み替えて計上していると回答した。

・委員より、国の基準では数字として表れてこない「隠れ待機児童」の現状について、奈良市において、隠れ待機児童数を把握しているという認識でよいのかとの意見があった。

・事務局より、隠れ待機児童（本当に行き先がないわけではないが特定の園を希望している等の理由で待機となっている児童）については他自治体と同様に解決できていない状況にあり、国の基準に基づいて待機児童数を把握していると回答した。

・委員より、幼稚園の閉園が多発している現状に対する奈良市の今後の見通しや、新制度園での一時預かり事業の利用増、さらに認定こども園化できない幼稚園への補助金体系の課題やそれによる閉園危機、1 号認定のニーズ減少への対策について、再編計画等も含めてどのように考えているのか教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、市立幼稚園の 1 号認定児の減少とそれに伴う閉園・こども園化は進んでおり、現在の市立幼稚園は閉園基準に達している状況であるため、今後は再編計画に基づき、こども園化や民間移管などを進めていく方向である。また、幼稚園をこど

も園化される場合の施設整備補助金等の相談を受け付けていること、また、5 年に 1 度の再編計画の見直しを行いながら再編や幼稚園のあり方を検討していきたいと回答した。

・委員より、事業番号 23 番の「妊婦等包括相談支援事業」について、自身の体験からつわりがしんどい時期に母子健康手帳をもらいに行くことが大変だったので、ウェブ申請が可能なのか知りたい。また事業番号 27 番の「産後ケア事業」の事前登録制度の有無、事業番号 135 番の「ファミリー・サポート・センター事業」において、キャンセル時など、依頼する側の負担が大きいと感じるとの意見があった。

・事務局より、母子健康手帳の交付や面談はオンラインで実施できる体制をとっている。また、産後ケア事業については、出産後に登録する仕組みであり、申請はオンライン可能で、医療機関や助産院との連携を随時とっていること、また、なら子育て情報ブックやホームページで利用できる施設の掲載、予約状況を確認できるリンクを貼っていると回答した。

・事務局より、ファミリー・サポート・センター事業の利用における援助会員さんとのやり取りや、依頼内容の調整等における責任体制、やりづらさ等については今後も意見をいただきながら改善に努めたいと回答した。

・委員より、事業番号 115 番・116 番の「地域子育て支援拠点事業」について、地域ごとに課題があり、計画値と実績値が乖離しているが、どのような評価やコメントをするべきなのか聞きたいとの意見があった。

・事務局より、地域子育て支援拠点（各中学校区に 1 拠点設置を目標）や子育てスポット事業（月 1、2 回実施）について、利用者が少ない山間部などのニーズに応じた調整をしながら、各地域の課題解決に向けた調整を進めていると回答した。

・委員より、計画値と実績値の関係における自己評価（A～E）の基準が不透明である点、例えば事業番号 43 番「幼稚園の在園児を対象とした一時預かり事業」が自動評価では C だが、担当評価では B になっている理由、また事業番号 24 番「妊婦健康診査事業」で計画値 25,620 に対し実績値が 22,031 であること、また現在の待機児童数と、バンビーホームに入れない児童がいるのかどうかについて教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、事業番号 43 番の評価については、需要を満たしている、また一時預かり事業を実施している幼稚園が増えている現状を踏まえ、担当課評価を「B」と判断したこと、これは自己評価を出す際に担当課の判断が一部入っているためであると回答した。

・事務局より、事業番号 24 番の実績値 22,031 回について、受診回数 14 回分の受診券（基本券 14 枚＋追加券 40 枚の計 54 枚）を妊娠届け出時にすべて交付している。目標値については、妊娠届け出の見込みの人数×14 回の受診回数として目標値を算出している。実際には、少子化の進行により、妊娠届け出数の数値は年々減少しているため、実績値が目標値を下回る形となったことから、少子化の推移などを加味して今後の目標値を設定していくと回答した。

・事務局より、待機児童数については令和 8 年 4 月時点で 16 人であること、また目標値の設定基準（実績からの算出やニーズ調査など）の違いによって計画値との乖離が発生している部分があり、今後の調査方法等を検討していきたいと回答した。

・事務局より、バンビーホームの待機児童については、就労条件等の審査基準をクリアした児童は全員入所できていると回答した。

・委員より、事業番号 24 番における「追加券 40 枚」について、これは 1 人に対して 14 回分に加えて 40 枚（合計 54 枚）を 1 回で交付しているのか、どのような状況の方に交付しているのか教えてほしいとの意見があった。

・事務局より、妊婦健康診査の公費負担として基本券 14 枚に加えて追加券 40 枚を合わせた計 54 枚のチケットを、妊娠届け出時に 1 人に対してまとめて交付しており、受診の検査内容等による費用に応じて、合計 13 万 5000 円程度の範囲内で組み合わせて使用していただく形になっていると回答した。

・委員より、1 人に対して 14 回分の受診のほか、1 枚ずつ使用できる 40 枚のチケットが交付されているという理解でよいかとの意見があった。

・事務局より、その通りであり、1 人につき 54 枚のチケットを交付し、受診期間中に組み合わせて使用していただく形をとっていると回答した。

資 料	【資料 1】奈良市子ども・子育て会議委員名簿 【資料 2－1】令和 8 年度「奈良市子ども会議」について 【資料 2－2】令和 8 年度子ども会議参加募集チラシ 【資料 3－1】第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン「子ども・子育て支援事業計画／こども計画」の指標・目標値修正について 【資料 3－2】第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン「子ども・子育て支援事業計画／こども計画」令和 7 年度進捗状況一覧 【資料 3－3】第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン「子ども・子育て支援事業計画／こども計画」令和 7 年度進捗状況について 【別添 1】なら子育て情報ブック 2026 年版
-----	---

